

## HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 科目概要

### ④日本語学習支援概論

北海道教育大学函館校  
准教授 佐藤香織

2021年度から開始した、専攻・グループを超えた人材養成プログラムである「国際地域イノベーター人材養成プログラム」の先行実施科目として、2020年度から「日本語学習支援概論(地域生活支援)」及び「日本語学習支援概論(学校教育)」を開始した。2021年度は、2年目の実施となり、さらに充実した内容となった。

まず、本科目の概要について述べる。函館を訪れる外国人、あるいは函館に在住している外国人と地域の住民が日本語でコミュニケーションする場面が増えている現在、多文化共生の視点から、地域や職場、学校現場において、外国人の日本語学習をサポートできる能力、日本人と外国人との円滑なコミュニケーションをサポートできる能力が、今後地域で活動していく人材には必要不可欠である。そのため、本科目では、日本語学や日本語教育の前提知識がない受講者を対象に、初級レベルの日本語学習者に対する理解や、外国人が地域で生活するということに対する理解を深め、日本語学習をサポートするための基礎的な知識と実践的な技能を身につけることを目的とした。また、日本語学習支援者は、外国人と日本人が相互理解を深め、お互いの交流及び協働が一層活発になるような取り組みを推進できる人材としても期待されるため、具体的に地域で想定されるような実践(ごみの出し方について分かりやすく説明する、職場や学校に来た外国人を歓迎するスピーチを行う、など)を取り入れた。

本科目の対象学生は、「日本語学習支援概論(学校教育)」が地域教育専攻及び教員志望の1～3年生、「日本語学習支援概論(地域生活支援)」が1～2年生である。2つの科目は基本的には合同で行ったが、学校教育現場に特化した内

容については「日本語学習支援概論(学校教育)」で扱い、地域での外国人支援の現場に特化した内容については、「日本語学習支援概論(地域生活支援)」で扱った。具体的な授業スケジュールを、表1に示す。

本科目は、前半の授業で地域の外国人を取り巻く状況についてさまざまな視点から学びを深めた上で、後半の授業で、実際の日本語学習支援の知識や実践的スキルを学ぶという構造になっている。地域で共に生活する仲間として寄り添う姿勢や、異文化の中で生活することへの想像力がなければ、日本語学習支援は表面的かつ一方的なものになってしまう可能性があると考えたためである。2021年度は、日本語学習支援者に欠かせない異文化間コミュニケーションについての理解を深めるため、今在慶一郎教授の講義を新しく加えた。また、後半の9～15コマは天理大学の菊池律之教授と佐藤による2日間の集中授業で実施したが、2020年度よりも1コマ分集中授業のコマを増やしたため、グループワークの時間も十分に確保することが出来、受講生達がじっくりと意見を出し合いながら活動することが可能になった。



授業風景

表1 2021年度「日本語学習支援概論」授業内容とスケジュール

	担当教員	日本語学習支援概論（地域生活支援）	日本語学習支援概論（学校教育）
6/2	佐藤香織	1.オリエンテーション、日本語学習支援者の役割	
6/9	森谷康文	2.地域の外国人労働者を取り巻く状況	
6/16	森谷康文	3.移民とその子どもをめぐる状況について	
6/23	金鉉善	4.定住外国人を対象とする法教育の必要性（日本語学習支援との関係）	
6/30	金鉉善	5.多文化共生社会の実現に向けての自治体の取り組みについて（地域によって外国人政策が異なる背景を探る）	授業なし
7/7	佐藤香織	授業なし	5.学校現場での日本語学習支援の仕組みと函館市の課題
7/14	今在慶一郎	6.日本語学習支援者が理解しておくべき異文化間コミュニケーションについて	
7/21	高橋圭介	7.外国人に対する「やさしい日本語」とは（「やさしい日本語」についての概説、取り組み例）	
7/28	佐藤香織	8.初級学習者（N5レベル）が理解可能な文法・語彙について	
8/10	菊池律之 佐藤香織	9.初級学習者（N5レベル）に対する「やさしい日本語」での話し方の基本練習（悪い例を良い例に変えるなども） 10～11.初級学習者（N5レベル）に対する「やさしい日本語」の実践（ゴミの出し方の説明）	
8/11	菊池律之 佐藤香織	12.初級終了レベルの学習者（N4レベル）が理解可能な文法・語彙について 13.初級終了レベルの学習者（N4レベル）に対する「やさしい日本語」の実践①（「日本語を少し学んだ仲間」を歓迎するスピーチを行う） 14～15.初級終了レベルの学習者（N4レベル）に対する「やさしい日本語」の実践② ・函館市HPの「新型コロナウイルス感染症に関する情報」内「濃厚接触者」への連絡事項について分かりやすく説明する ・「賃貸住宅標準契約書」の重要な部分を分かりやすく説明する	

集中授業を担当した天理大学の菊池律之教授からは、「受講生たちはどの練習にも意欲的に取り組んでくれ、それぞれのセンスを生かしてレベルに合わせた表現を示してくれました。相手の理解度を十分に考えて話す・書くというのは、日本語教育や日本語学習支援に限らず、あらゆるコミュニケーションの場面で求められる基本的な姿勢だと思います。受講生たちにはこの大切さを実感する機会になったのではないかと思います。」という、受講生の成長が実感でき

るコメントが寄せられた。本科目の受講生からは、「地域として外国人の方を迎え入れる際に重要なポイントについて、さまざまな視点から学ぶことができた」「自分が普段使っている日本語を見直しながら外国人に伝わるやさしい日本語を考えることができた」など、好評価が得られた。来年度からは、国際地域イノベーター人材養成プログラム履修生が本格的に本授業を履修することになるので、さらに内容や授業構成について改善していく予定である。